

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	大原野こども園	施設種別	幼保連携型認定こども園 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 28 年 10 月 12 日

総 評	<p>大原野こども園は、昭和55年に保育園として開設し、平成27年4月より幼保連携型認定こども園となりました。洛西ニュータウンに隣接しており、周辺は豊かな自然環境と、古くからある住宅に囲まれたこども園です。</p> <p>子どもの自発性を大切に考えており、プロジェクト型保育として毎月ひとつのテーマを設定し、それに沿った内容で様々な環境構成を整えています。子ども自身が楽しみながら自然と色々な体験を積み重ね、成長できるように配慮しています。</p> <p>幼児クラスは、異年齢で構成しており、生活体験から年上の友だちを敬い、また年下の友だちを気遣えるよう見守り、子ども同士の関わりの中で生きる力が培われるよう取り組んでいます。</p> <p>職員にとっても、働きやすい環境を提供することで、職員自らが子どもたちにより良い保育を提供したいと思えるよう配慮すると共に、園内研修やキャリアパス制度の充実にも努めており、職員それぞれの資質が向上するよう取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> こども園の移行に伴い、保育の理念、それに基づく基本方針・保育目標は、誰がみても理解しやすいよう工夫しています。今まで積み上げてきた保育内容をもとに、全職員で大切にしていきたい事、目標としたい事を出し合い、日々の保育内容を振り返る時に見直す指針として分かりやすく示しています。 職員の自己評価の内容について自園で工夫し、園の方針や経営環境など、法人と職員が共通の認識を持ってより良い保育の質の向上に努めています。また、有給休暇の100%取得の徹底を行うなど、職員の就労状況に対する改善を実施し、働く環境の向上にも努めています。 外部講師によって毎月、園内研修を実施し、園の保育の方向性が職員間で共有されるよう取り組んでいます。各保育室に発達に応じたコーナー遊びの環境を設け、子ども達が主体性を持って遊べるよう取り組んでいます。また、毎朝夕にサークルタイムを設け、いつも決まった場所で全ての子どもが自分から発言したり、他児の発言を聞く機会を設けています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> 記録管理に関する規程の中に、廃棄に関する項目と、情報の開示を求められた場合に関する項目を明示されるとより良いでしょう。 建物や設備については、現在バリアフリーではない部分があります。今後は、出来る部分から改善に努められると良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	大原野こども園
施設種別	幼保連携型認定こども園
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	2016年10月12日(水)

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1 (2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-2 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2 (2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 (1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-1 (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

・保育の理念、それに基づく基本方針・保育目標は、木をイメージしたイラスト上に明文化し、誰がみても理解しやすいよう工夫しています。それは、園生活のしおりやパンフレット、園内に明示し、周知に努めています。理念の内容は、創始者の理念に基づき、今まで積み上げてきた保育内容をもとに、全職員で大切にしていきたい事、目標としたい事を出し合い、「自分自身のことが好きな子ども」「自立できる子ども」「約束(規律)を守る子ども」「人の話が聞ける子ども」「自分の思い(考え)が伝えられる子ども」として日々の保育内容を振り返る時に見直す指針として分かりやすく示しています。

・保育課程が園の方針に沿って編成され、年間指導計画・短期指導計画・環境構成計画との整合性が図られています。また、子どもの主体性を伸ばす事に主眼を置き、毎月のテーマに沿った内容で子どもが自主的に生活や遊びに取り組めるよう、プロジェクト型保育の計画も作成しています。保護者は、指導計画に基づいた子ども一人ひとりの発達記録や身体計測結果を、自分の子どもに限りパスワードを入力すればインターネット上で閲覧できます。

・園内で共有すべき情報は、各保育室にあるパソコンやタブレット端末、職員個人の端末などをクラウド環境で連携し、タイムリーに情報共有が出来るよう整備しています。職員会議録も園長と副園長が統一の書式に落とし込み、随時配信すると共に紙ベースでも回覧し、会議に参加しない職員や非常勤の職員も確認できるようにしています。

・キャリアパスを作成し、毎月個別の自己評価をキャリアに応じた内容で実施しています。その内容は、管理者との面談で確認し、職員の資質向上に繋がるよう努めています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-1 (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-1 (1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
	II-2-2 (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
		② 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		③ 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
	II-2-3 (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
		② 定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
II-2-4 (4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-1 (1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-3-2 (2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A
[自由記述欄]				
<p>・ 職員の自己評価の内容について自園で工夫し、園の方針や経営環境など、法人と職員が共通の認識を持ってより良い保育の質の向上に努めています。また、有給休暇の100%取得の徹底を行うなど、職員の就労状況に対する改善を実施し、働く環境の向上にも努めています。また、教員免許更新費用の全額補助を行うなど、キャリアアップを支援する仕組みの構築にも努めています。</p> <p>・ 毎月園内研修を実施し、同じ講師によって保育から法令等まで共通の理解が促されるよう取り組んでいます。また、キャリアに応じた園外研修にも希望を聞いて参加し、その内容を職員会議で必ず報告発表するようにしています。それらの内容は会議録で全ての職員への周知に努めています。</p> <p>・ 地域子育て支援ステーション事業として「わくわくランド」を毎週、園庭開放や子育て相談、ベビーマッサージ教室、ダンス教室などの内容で開催すると共に、メールマガジンを登録者宛てに毎月配信し、子育て情報の提供にも努めています。また、敬老交流会やフェスタ大原野など地域の方と一緒に取り組む行事を行い、地域おこしの一環となれるよう取り組んでいます。</p>				

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ-1-1(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-2(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-1(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-1(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A
[自由記述欄]				
<p>・苦情解決の仕組みを整備しています。大きな苦情は現在はありませんが、保護者アンケートを実施することで、園に対する意見を募るようにしています。その内容・対応などは保護者に対して配布しフィードバックしています。</p> <p>・園の様々なマニュアルを冊子にして、その必要性を話し合ったうえで全職員に配布しています。個人目標を含めた自己評価を年2回実施し、管理者との懇談の中で目標や評価の確認・見直しを行っています。それとは別に、子どもとの関わりに関する自己評価を毎月実施し、その結果を職員間で共有し協力しあえる環境作りに努めています。</p> <p>・子どもの身体状況や生活状況等を適切に記録し管理しています。記録管理に関する規定も整備されています。今後は、記録管理に関する規程の中に、廃業に関する項目と、情報の開示を求められた場合に関する項目を明示されるとより良いでしょう。</p> <p>・園のホームページでは、園の概要や保育内容を掲載しています。保育内容などの動画配信や、写真等による情報提供も行っており、ホームページ等への写真掲載について保護者から同意書ももらっています。</p> <p>・児童の転園に際し、転園先から要望があれば児童要録と共に引き継ぎシートを作成し、児童の発達の継続性に配慮した対応を行っています。</p>				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかがわかるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる		B	B	

【自由記述欄】

・内科健診、歯科健診の内容は保育支援システム内で記録し、保護者もパスワードを入力すればインターネット上で閲覧できるようにしています。保護者と情報を共有し、普段の生活や保育に反映するよう努めています。

・感染症が発生した場合、全保護者に発生状況をメール配信や園内に掲示し、予防対策とあわせて通知しています。

・毎月一回、食育プログラムとして、隣接する園の農園で収穫した野菜などを食材として使用したクッキング保育に取り組んでいます。クッキングの様子は写真を使って掲示し、保護者に活動内容を伝えています。幼児クラスは、毎日の給食をバイキング形式で進めており、決められた時間内であれば、好きな時間に食べる事が出来るようにしています。

・毎月の給食だより発行や、レシピの配布、参観時には保護者が給食を食べられる機会を設けるなど、食事や給食に対して関心を持ってもらえるよう取り組んでいます。

・外部講師によって毎月、園内研修を実施し、園の保育の方向性が職員間で共有されるよう取り組んでいます。各保育室に発達に応じたコーナー遊びの環境を設け、子ども達が主体性を持って遊べるよう取り組んでいます。また、毎朝夕にサークルタイムを設け、いつも決まった場所で全ての子どもが自分から発言したり、他児の発言を聞く機会を設けています。

・異年齢保育とプロジェクト型保育に取り組んでおり、毎月テーマを設定し、それに沿った保育を実践しています。子どもが自発的に活動し成長出来るよう取り組んでいます。配膳や洗濯などの当番制を行い、週ごとに内容を変えて、様々なお手伝いが体験できるようにしています。

・乳児クラスは、ゆるやか育児担当制を取り入れ、家庭と連携を図りながら特定の保育教諭が関わることで、体調や生活リズムなどに配慮できるようにしています。

・障害児に対し、専門機関と連携を図りながら、必要な援助ができるよう配慮しています。しかし、建物や設備については、現在バリアフリーではない部分があります。今後は、出来る部分から改善に努められると良いでしょう。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A
[自由記述欄] ・年に一度、参加型の保育参観を行っています。保護者に一年間を通して都合の良い日に来園してもらい、親子で保育に参加し、子どもの園での様子を観てもらおうと共に、保育方針について共通の理解が得られるよう取り組んでいます。また、クラス懇談会は年2回、題材を決めて子育て等について勉強したり話し合ったりする保護者の集まりを催し、その中で保護者アンケートも実施し保育内容に反映するようにしています。 ・家庭の状況や保護者との情報交換の内容は、児童票や保育支援システムに必要に応じて記録されています。その内容は、毎週開催の職員会議等でも共有しています。 ・一時預かり保育は、毎日5名定員で受け入れしています。一人ひとりの子どもの日々の状態に応じて通常保育との交流を行いながら保育を実施しています。				

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
[自由記述欄] ・安全や事故防止に対するマニュアルを整備し、職員間で共有しています。 ・毎年、業者による遊具チェックを実施しています。また、職員はチェックリストを用いて安全チェックを実施しています。 ・園内危険マップを作成し、一目で注意する場所などが確認できるようにするなど、危険箇所の点検に努めています。また、事故内容リストとして事故等が発生した内容を記録しており、職員会議で内容を共有し、事故予防に努めています。 ・不審者侵入時に対応するためのマニュアルのDVDを職員会議で見て確認し、年1回訓練を実施しています。				